



尾久西だより

荒川区立尾久西小学校
発行日 令和元年7月1日
発行者 校長 芝田智昭

No. 338 7月号

時を守る

今年度も3か月が終わり、1学期は残すところ7月のみとなりました。各学級で4月からの学びを振り返り、できるようになったことと補うべきところを明らかにして、夏休みに向けた準備を進めていきます。

今年は7月20日から9月1日まで夏休みになります。家庭で過ごすことが多くなるので、学校と比べて「時」に対する意識が薄れる期間でもあります。そこで、「時」について、二つの側面から考えたいと思います。

一つは、時刻です。始まりであったり終わりであったり、目安であったり約束であったりします。始まりの時刻について、最近感心したことがあります。それは、本校6年生の行動です。先日、2泊3日で下田移動教室に行ってきました。移動教室では一日中集団行動で、個人的な思いや振る舞いは我慢しなくてはなりません。そうした中、6年生は常に5分前行動で、決められた時刻に遅れることは1回もありませんでした。全員がその場にそろいきちんと整列していました。70人近い集団になると、なかなかできることはありません。尾久西小の最上級生のこうした立派な姿を見て、下級生も6年生になったらこのようにできるんだな、と心強く思いました。

終わりの時刻でも感心していることがあります。それは中休みと昼休みが終了する場面です。本校の子どもたちは、それまで楽しく元気に体を動かしていますが、次の活動に移る音楽が流れると、全員すぐに遊びをやめ教室に戻っていきます。行動の切り替えは簡単ではありませんが、尾久西小の1年生から6年生まで全員それができるのです。

もう一つの側面は、時間です。時刻と別の時刻との間の長さ、という意味になるでしょうか。学校では問題を解いたり作業をしたりする際に時間が決められます。その時間で終えるためには、途中での臨機応変の対応や柔軟な思考が求められます。さらには、始める前に材料をそろえたり手順を確認したりしておかないと、予定通り終了できない場合もあるでしょう。時間を守るとは、その間の自分の行動を前もってイメージし必要な準備を整えたり、方法や順番を考えたりしなくてはならないので、非常に難しいことです。大人でも困難なので、子どもにとってはなおさらでしょう。

しかし、自立する上で重要なことの一つが、「時」の管理だと言われています。夏休みに向け、ご家庭でお子さんと一緒に計画を立てる際、“何をするか”に加え、“時刻”と“時間”の観点からも話合っただけであれば幸いです。